

---

山梨大学教育学部附属教育実践総合センター  
センターだより第207号(通巻第274号)

---

2023年9月29日 発行  
山梨大学教育学部  
附属教育実践総合センター  
TEL 055-220-8325、FAX 055-220-8790  
E-mail: jissen@ml.yamanashi.ac.jp  
URL: <https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/>

※このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラムに関するお知らせは、改変しない限り、自由に複写、配布していただいて結構です。

\*\*\*\*\*コンテンツ一覧\*\*\*\*\*

■「令和5年度 第1回教師力養成講座」の報告

■「第42回 教育フォーラム『教科書の使い方講座』～算数・数学授業における教科書活用法、決定版！～」のご案内

■10・11月の主な行事予定

\*\*\*\*\*

これまでのセンターだよりの一部は、<https://www.edu.yamanashi.ac.jp/aepc/2306/> で見ることができます。

## ■令和5年度「第1回教師力養成講座」の報告

1 実施日 令和5年7月12日(水) 13:10~16:30

2 開催場所 A会議室およびM11(対面)  
(都合により受講できない学生はオンデマンド)

3 次第

- (1) 開会行事1
- (2) 講演1
- (3) 開会行事2
- (4) 講演2
- (5) 閉会行事



4 受講者数 113名(対面)

7月12日(水)、山梨大学教師塾プログラム事業の一環として、「第1回教師力養成講座」を開催しました。

本講座は、学部3年生を対象に、現場経験豊富な各講師のワークショップを通して、「質の高い教員の養成・教員就職率の向上」「後期実習への目標設定と指導力の向上」を目的に企画されました。当日は、二会場に分かれた対面形式で行われ、113名が受講しました。

内容は2部制で、講演Aは、法政大学の辻本昭彦先生を講師としてお招きし、「主体性を発揮せよ～自己肯定感をなくして主体性は生まれぬ～」という演題でご講演いただきました。講演Bは、附属教育実践総合センターの中込司先生に「教員の働き方改革について」ご講話をいただいた後、古屋啓一先生に「主体的・対話的で深い学びをデザインする」という演題でご講演いただきました。

講演ABともにワークショップ(グループワーク)が多く行われました。その際、客員教授の皆さんに各グループの話し合いを見守っていただいたりご指導いただいたりと、ご支援をいただきました。

当日、他の授業があるなど、都合により受講できない学生は、後日オンデマンドで受講しました。

受講後には、オンラインでのアンケートを行いました。アンケート集計に詳細を掲載いたしますが、受講した学生にとって多くの学びがあった講座であることが伺えます。自由記述欄にも多くの前向きな意見が寄せられました。



## 山梨大学教師塾プログラム2023・教師力養成講座Ⅰアンケート集計結果

〈アンケート回答数88〉

### 1 目的と考察対象

#### \* 目的

・教育に対する情熱と使命感、豊かな専門的知識や実践的指導力を有し、教育現場における今日的課題に柔軟に対応できる質の高い教員の養成を図るとともに、山梨県内の国立教員養成学部として、教員就職率の向上を目指す。

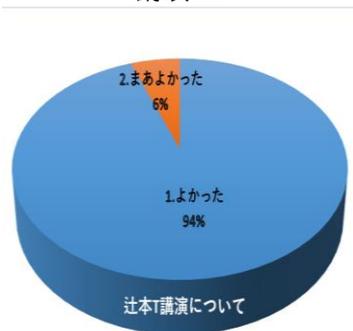
・後期教育実習に向け、教科等の指導法や実習の進め方等について実践的に学ぶことを通して、後期実習への目標を新たにするとともに、実践的指導力の向上につなげる。

以上の目的等から、以下の4点について事後アンケートより考察する。

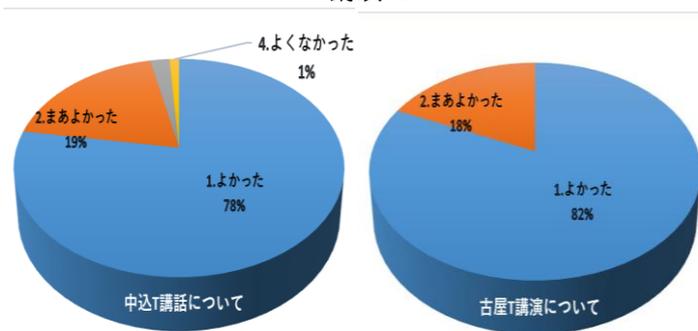
- ① 「教育現場における今日的課題に柔軟に対応できる質の高い教員の養成」
- ② 「教員就職率の向上」
- ③ 「教科等の指導法や実習の進め方等・実践的指導力」
- ④ 「後期実習への目標を新たにする。」

## 2 アンケート分析

### (1) アンケート1 講演 A

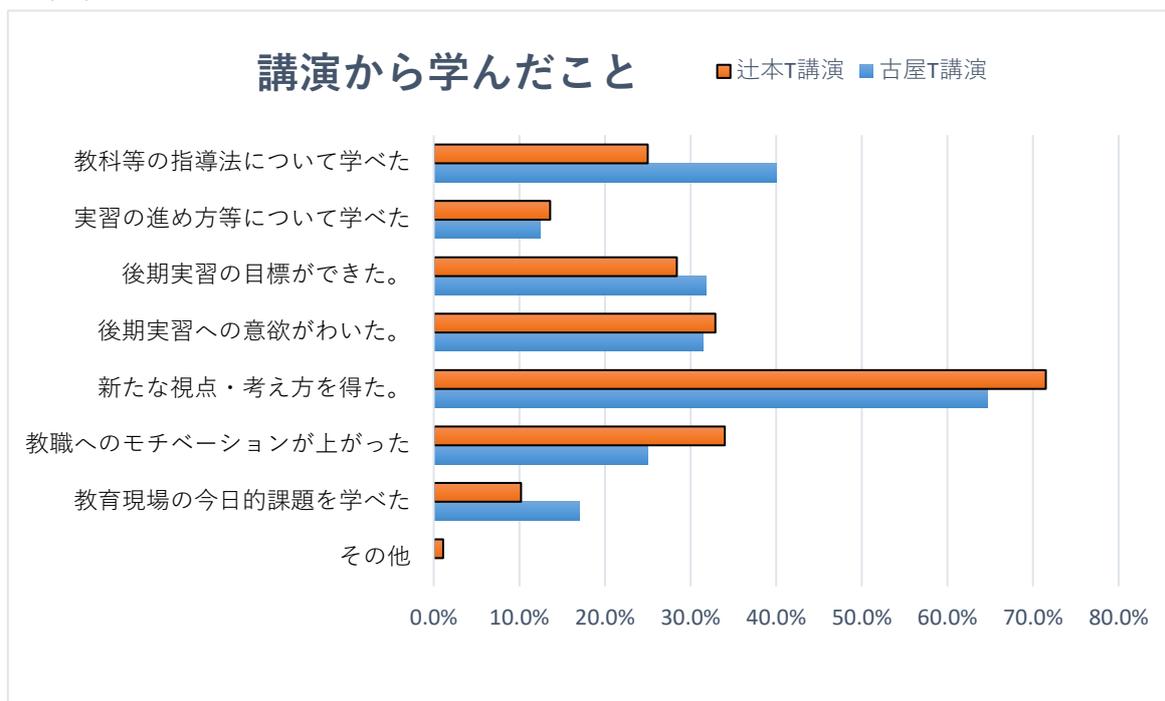


### 講演 B



\*両講演とも「よかった」の回答が大部分であり多くの受講生に好意的に受け止められた。

### (2) アンケート2



- ・「新たな視点・考え方を得た。」について3分の2以上の受講生から支持された。
- ・「教職へのモチベーション向上」は辻本講演の受講生の3割以上から支持された。
- ・「教科等の指導法について学べた」は古屋講演の受講生の4割以上から支持された。
- ・「後期実習への意欲・目標等」については両講演とも約3割の受講生から支持された。
- ・「教育現場の今日的課題」については1割から2割の支持率であった。
- ・「実習の進め方」に関しては1割程度の支持率であった。

\*辻本先生の講演は「教職への意欲向上」について、古屋先生の講演は「教科等の指導法」について効果が高かった。また両講演とも受講生に、教育における新たな視点や・考え方を与えることができた。

自由記述から、辻本先生の講演では、主体性を高めるためには、自己肯定感を高めることが大切であることを、グループワークを通じて実感しており、自分や教職に関しての心の持ち方について、思考を深めていることが推察される。そのことが、教職へのモチベーションの向上につながっているのではないか。

また、古屋先生の講演からは、主として授業に関して、アクティブラーニングの知識やその実際の方法について演習を通して体験し、特に「教科横断的な学び」のあり方や「発問」の重要性に関して理解を深めたことが推察される。そのことが、実習に向けての教科等の指導法の学びにつながっているのではないか。

<実際の記述>

- ・自己肯定感が上がることで主体性が育まれるという考え方にとても感銘を受けた。グループでの活動において、あまり交流がなかった人から褒められとても自己肯定感が上がった。自己肯定感が上がることで自信に繋がり、その後のグループワークも初対面とは思えないほど意見が飛び交い、とても良い経験をする事ができた。(辻本先生の講演の感想より)
- ・教科を横断させることの良さ、学びの深まり方を、実感を持って知ることができたことや、知識・技能の定着を図るために、児童生徒同士が自身の意見を交わし合うことで、問いを追求していくことの重要性を、身をもって分かった。また、発問とは、答えを合わせるのではなく、教師の発問が刺激となって子どもの探究がはじまる発問が真のものであるというお話から、発問を設定する重要性や難しさを感じ、教育実習の際に意識していきたいと思った。(古屋先生の講演の感想より)

\*中込先生の講話に対する自由記述から、教職はブラックだとイメージしていた学生が、教職員の労働環境や働き方改革の現状等を学び、教職のやりがいや意義を感じ、教職へのモチベーション向上につながったと推察される。

<実際の記述>

- ・ブラックだといわれているけれど、他の仕事も同じように大変であり、楽な仕事はないと感じた。教師は、自分の関わりが子どもたちの成長につながり、その成長を近くで見ることが出来るからとてもやりがいのある仕事だと感じた。
- ・教員という職業にはブラックなイメージがあったが、他の職業にも大変な面はあるのだなと実感できた。また、働き方改革をすることは、教師だけでなく、ゆくゆくは子どものためになることを学んだ。
- ・働くことと、教員という職を持つことを考え、その意義を感じられた講義でした。教師に向けて、より意欲が高まりました。

\*アンケート結果や自由記述から、本講座を受講したことで、実習に向けて新たな目標が生まれ、意欲が湧いたと推察される。

<実際の記述>

- ・この講義の内容では実際に得た知識や情報を活用するための手段として、問の部分から知識を活用して解くことができるかもしれないという意識を児童や生徒に持たせることが重要になってくると感じた。このような考え方は私の中にはあまりなかったので後期の実習を行う際にはこのような問を作れるようにしていきたいと感じた。
- ・教えるのではなく、考えさせて答えに導かせたり、教え合いをしたりする方が、学びが深まることを実践して教えてくださって、後期の実習では児童の学び合いを意識して取り入れたいと思いました。

- ・その場で出会った人と仲良くなれた。コミュニケーションについて多く学び、実習のモチベーションが上がった。

### 3 まとめ

- ①「教育現場における今日的課題に柔軟に対応できる質の高い教員の養成」について  
「今日的課題を学んだ」と回答した受講生は1割から2割程度だった。しかし、7割程度の受講生が「新たな視点・考え方を得た」と回答している。講演の内容が教育現場における今日的課題であることを考えると、今日的課題に関する知識とその対応について多くの受講生が学びを実感したといえる。
- ②「教員就職率の向上」について  
主として辻本先生の講演において、コミュニケーション力や自己肯定感など心の問題について、グループワークを通じて深く学んだことが教職へのモチベーションの向上につながり、ひいては教員就職率の向上につながると考えられる。  
また、中込先生の講話において、教職員の働き方改革の現状や仕事のやりがいについて知ることができたことで、教職を目指す意欲が高まったと考えられる。
- ③「教科等の指導法や実習の進め方等・実践的指導力」について  
主として古屋先生の講演において、アクティブラーニングを体験し、特に「教科横断的な学び」や「発問」の重要性について理解を深めたことは、教科等の指導法や実践的指導力の向上につながったと考えられる。
- ⑤「後期実習への目標を新たにする。」について  
両講演の自由記述から、実習に向けて、児童生徒とのコミュニケーションや発問・主体的な学びなどの新たな目標が生まれ、意欲が湧いたと推察される。

以上のことから本講座は目的に即して効果があったと考えられる。

### 4 参考（自由記述）

<辻本先生の講演の感想>

- ・グループワークが多くて楽しかった。
- ・緊張感をほぐして楽しく学ぶことができた。
- ・タメになった。
- ・その場で出会った人と仲良くなれた。コミュニケーションについて多く学び、実習のモチベーションが上がった。
- ・後半の映像で市長が実際に来て生徒のポスターセッションに加わるというのが衝撃的だった。
- ・受講者中心に進められていたため楽しかった。授業でも実践したい。
- ・自己肯定感を高めることは大切だとわかった。教師が自己肯定感が高くなければ、生徒もついていけないと思うので、自己肯定感を大切にしたい。
- ・様々な人の考え方に触れることができてとても面白かった。
- ・ワークショップを通して、自分の意見を相手に伝えたり、色々な人の考えを知ることが自分の視野を広げたりすることができると思った。
- ・楽しかった。教師以外でも色々使える知識を学ぶことができた。  
ワークショップで活発に話せたことが良かった。人のいいところを探すことを意識して人と関わりたいと思った。
- ・ワークショップを行い、初対面の人が多い中で相手のことを知り褒め合う中で自己を見つめ直し、主体的に自己を出すことができるようになるのだと思った。

- ・とてもためになった。今後に生かしたいと思った
- ・グループワークを通して、自分の意見を言ったり相手の意見を聞いたりする中で、相手の主張に納得し意見が少し変わったりすることが面白かった。
- ・初対面の人と話したが、楽しかった。また、子どもたちが説明できて初めて学習できるということを学んだ。
- ・初対面の人であっても、何回かのワークを通して仲良くなることができたのがよかった。普段、自分の価値観について話し合うことは少ないので、貴重な体験ができた。
- ・自己肯定感無くして主体的学習はできないというのを聞いて本当にそうだなと思った。働く上で重視することの順序でいろんな意見が出てきて話をまとめるのも難しかったし、いろんな考えを聞いて意見が動いたり違う視点から物事を見たりできたので良かった。
- ・グループワークを通じて、多様な価値観に触れ、自分の考えを広めることが重要だと感じた。
- ・実際に活動をしたので、とても印象に残りました。実際の授業でも先生が一方的に話すのではなく、児童生徒が主体となって学習することが、難しいけど重要だということが分かりました。
- ・楽しかったです。
- ・主体性という曖昧なテーマであったけれど、自己肯定感と結びつけた講義で面白かった。あまり話したことの無い人であっても褒められると嬉しいし、これを教育現場にも取り入れていくことでよりよい学級経営に繋がるのではないかなと感じた。
- ・対話的な学習が効果的だということを自分自身で実感することが出来ました。自分自身が教員になった時、効果的な授業をつくるため、対話的な学びをとりいれていきたいと思いました。
- ・主体性を発揮するなら、自己肯定感を高めることが大切だと分かった。
- ・一人一人働く理由が異なっていて、他の人の価値観を聞くことで自分自身の仕事への捉え方に新たな視点を得ることができた。
- ・今後につながる講義でした。ありがとうございました。
- ・ダイヤモンドランキングでは、実際に中学生が行っているテーマで考え、生徒の気持ちを改めて体験できました。
- ・初めて会う人たちと話し合うことはとても緊張したが、自己紹介や活動を通して、楽しく話し合うことができた。
- ・グループワークの目的、方法が改めてわかった。
- ・グループワークが多くて90分間飽きなかった。
- ・興味深い内容でした。
- ・教育実習をする中で、プレゼンテーションや発表など、自己を表明することには慣れてきたが、改めて自己をプレゼンテーションしてみると、人の好い所などがわかって面白いと思った。
- ・ライフスタイルピラミッドの討議の仕方や、ポスターセッションの様子を知ることが出来た。
- ・意外と教師が主体となって授業をしなくても、子どもたちだけでプレゼンテーションをすることができることを知り、後期の実習の授業に活用していこうと思った。
- ・対話的な学びをすることは教科の知識をより得ることができるようになるだけでなく、人間形成の面でも大きな役割を果たすということがよくわかりました。主体的な人間を作るためには、自己肯定感をどのようにして上げていくかを考える必要があると感じた。
- ・ワークショップが楽しかったです。
- ・ワークショップがとても楽しかった。自分が誰かに受け入れてもらえるという実感があると、意見や質問を積極的に伝えようと思えることを、身をもって体験した。
- ・教科を繋げる授業づくりについてイメージできた。発問の仕方や授業の進め方についてとて

も勉強になった。

- ・グループワークを通じて、他の人から新たな考え方などを得ることができた。
- ・ワークショップが沢山あって、主体的に深い学びが出来ました。
- ・自己肯定感と主体性の関係を深く知ることができた。また、久しぶりにあんなに人に褒められて小恥ずかしかったが、とてもうれしくて幸せになれた。
- ・グループワーク中心で楽しく受ける方ができました。実際の教育現場で取り入れられるものだったので、後期実習や実際に教員になった際に参考にするとともに、取り入れていきたいです。
- ・初対面の人と話すのは緊張したが、アイスブレイクの方法を学び、実際の実習でも試せたら試したいと思った。
- ・知らない人と関わった時の方法や瞬時に相手の良い点を見つけるための視点などを後期の実習までに養いたいと感じた。
- ・自分について誰かからいいところを書いてもらう経験がなかったので、自分では気づかなかった自分の良いところを知ることができました。
- ・私は自己肯定感が高いとは言えないので、今日の活動はとても貴重なものでした。
- ・とても面白かったです。教師力ってどんなものかを身をもって感じられた時間でした。もっと時間が欲しかったです。
- ・学生メインの活動が多く、初めての人とでも和気藹々とした雰囲気でも活動でき、楽しかった。自分が教職の仕事に就いた時に、仕事をする上で大事なことは何かをよく考えることができるきっかけになった。
- ・自己肯定感が上がることで主体性が育まれるという考え方にとっても感銘を受けた。グループでの活動において、あまり交流がなかった人から褒められとても自己肯定感が上がった。自己肯定感が上がることで自信に繋がり、その後のグループワークも初対面とは思えないほど意見が飛び交い、とても良い経験をする事ができた。
- ・初対面の人とのワークにおいて、自己表現、自己開示をする中で自己肯定感を高めることを実際に行い、「自己肯定感なくして主体性は生まれない」とおっしゃる意味を自分なりに理解することができたと思う。また、ダイヤモンドランキングでは、なにを優先するのか、意見が異なる中でも、多数派で決めるのではなく、その考えにいかになんか納得できるかで、また思考が変わることがあることを知り、実際に子どもたちの活動においてもそのような場面が見られたということから、関わる機会を用いた深い学びの場を設定していきたいと思った。
- ・教えるのではなく、考えさせて答えに導かせたり、教え合いをしたりする方が、学びが深まることを実践して教えてくださって、後期の実習では児童の学び合いを意識して取り入れたと思いました。
- ・自己肯定感について、知らない人からにでも褒められると嬉しいと感じた。面白いと思う！
- ・授業づくりに活かしたい。
- ・とても活発な活動を通して、楽しく講義を受けることができました。主体性と自己肯定感を結びつけた講義は、私たちの活動への参加度合いだけでなく、後期教育実習の授業づくりに向けてもとても大切だと考えられました。
- ・ワークショップで行った、相手の良いところを書いてみようという活動を通して、短い間で良いところを見つけるという活動をしたことで、実際に教員になった時もそうだと思いますが、実習では特に子どもたちと関わる時にも、長いようで短い時間しか関わる事ができないと思うのでその時間の中で素敵なお話をたくさん見つけて、それを子どもたちに伝えたり、授業や日常生活で活かしたりしながら過ごしたいなと思いました。また、ダイヤモンドランキングの活動を通して、さまざまな人の価値観を知ることによって、自分の考えが深まり、新たな視点を得ることができるといえることを実感しました。
- ・いろいろな人と話したり、考えを共有したりすることで新しい視点で学ぶことができた。
- ・いろいろな教科を組み合わせる授業をすることは楽しいことであるということが分かりまし

- た。
- ・グループワークが楽しかった。
  - ・働くのはお金だけじゃないと分かりました。
  - ・評定の動きの違いがかなりあることに驚きました。
  - ・グループ内でお互い良いところを見つけることで自己肯定感を上げるという活動は、斬新だなと感じる一方で、非常に子供たちにとっても刺激のある良い活動なのではないかと感じた。
  - ・私は人見知りなので、話すのが初めてくらいの同期との会話が、あんなに楽しくなるなんて、驚いた。
  - ・グループと楽しく活動できて、楽しいワークショップが印象的でした。
  - ・普段交流がない人との交流は、楽しいと感じることが出来た。話し方もスムーズで自己紹介のハードルが上がっていくのは少し緊張した。
  - ・初対面の人の褒めるところを探す難しさを感じた。しかし、自分が褒められる立場だと誰からでも嬉しいなと感じた。後期教育実習では自分が接する子どもたち一人一人の褒めるところを3週間かけて見つけていきたいなと感じた。
  - ・話が終始分かりやすかった。学生の参加意欲を高める講義だった。
  - ・自己肯定感は日本の教育や社会において往々にして問題にされるものである。これの向上に資する教育の方途の検討は不断に行われるべきであろうと思われるし、辻本先生の実践は普段からの仕込みの上に成り立っているのではないかとも思われるので、意識する点を明確にしたうえで授業実践に取り組みたいと思う。
  - ・ワークショップがあっただけ話を聞くだけではなかったのが退屈しなかったです。
  - ・人からしか見えない自分のいいところなどがあるのだなと実感できる授業だった。また、ダイヤモンドランキングによって人の価値観の相違などを目に見えて感じることができるということを知れた。
  - ・今後に生かそうと思う。
  - ・教師という仕事を考えるに当たって働くことの意義を知ることができた。
  - ・成績曲線を書いてみたが、ある程度変化のある曲線になった。自己肯定感が回復力につながるということは、自身の体験から確かにそうだと感じた。反転学習については、私も実際に高校の世界史の授業で取り組んでいたが、従来の受動的な授業に比べて、私にとってはより理解が深まる上に、友達との対話から学ぶという、学校で授業をすることの意味を見出すことができた体験だった。
  - ・実際の中学生の映像も見られてよかった。
  - ・児童や生徒が授業の中で持っているほしい自主的かつ対話的に授業を行っていく力に関して、話を聞く前には教員の発問の工夫で何とか主体性を持たせることしか知らなかったが、実際に授業を行っている映像や話を聞く中で児童や生徒に自己肯定感を持たせることによって調べ学習の際には積極的に活動に取り組んでいる様子が見ることができて、主体的・対話的な学習にするための具体的な手立てや手法を知ることができてよかった。
  - ・自分のモチベーションは、人との関わりなど環境の要因で変化する場合もあるということが印象に残った。自分の学生時代を振り返って、共感する部分も多くあった。私も、教育実習を通して、子どもたちとの出会えたことが、今の自分の糧になっていると思う。誰かにも、そのように思ってもらえたらうれしい。
  - ・最近、少し苦しい状況が続いていた。「他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる」という言葉が、今の自分の心にストンと落ちた。講座の目的とは少し異なっているが、私も少し元気をもらった。本当は、対面で参加したかったけれど、録画で参加できてよかったです。ありがとうございました。
  - ・辻元先生の講義をきき、子どもたちの主体性を育ませるためのゲームや授業内容をより考えたいとなった。

- ・自分の自己紹介を通して、人に自分の気持ちを伝える技術の大切さ、そして、パントマイムの大事さを学ぶことができた。
- ・自己紹介を、パントマイムを使って行うことで相手に想像させ自分を知らうと思わせるのでとても良いなと思いました。

#### <中込先生講話の感想>

- ・教員の現状について理解できた。現状を理解しながらためになる実習にしたいと考えた。
- ・実習でもやりがいを感じたことはなかった。
- ・教職の現実を知れた。
- ・ちゅうちゅうの自己紹介はどうやっているのか知りたいと思った。
- ・ブラックと言われている教員の仕事をもう一度考えることができた。自身の生活と教職を両立させたいと思った。
- ・教員の働き方改革について考えることができた。教員が思っているよりブラックではないのかもしれないと思った。
- ・教師の実態などがわかった。
- ・どの職でも大変さはあることがわかった。
- ・教員という仕事について現実的なことを知ることでよかった。
- ・働き方について改めて考えることができた。
- ・ブラックだといわれているけれど、他の仕事も同じように大変であり、楽な仕事はないと感じた。教師は、自分の関わりが子どもたちの成長につながり、その成長を近くで見ることが出来るからとてもやりがいのある仕事だと感じた。
- ・教員をただブラックな仕事と決めるのは良くないと思った。
- ・教員という職業にはブラックなイメージがあったが、他の職業にも大変な面はあるのだなと実感できた。また、働き方改革をすることは、教師だけでなく、ゆくゆくは子どものためになることを学んだ。
- ・教員ブラック問題というのはよく聞くし、やっぱり大変なのかなと不安になることも多いけれど、その分やりがいもあるし、教員が働く為に様々な政策が取られていることを知ることで少し安心することができてよかった。
- ・もう少し具体的な話や過去のエピソードが聞けると思っていたが、数字を用いた説明だけで内容が少し淡泊に感じた。
- ・ブラックと言われる教員の仕事の実態について、お話を聞くことが出来て、とても参考になりました。ただブラックなだけでは無いことがわかりました。
- ・ためになりました。
- ・実際に教鞭を執っていた先生の等身大のお話を聞くことが出来て良かった。やはりどの職業でもブラックな面を持ち合わせていて、教員は近年ブラックな面に目が行きがちだけど、ホワイトな面にも目を向けて両面から考えていきたいなと思った。
- ・教職という仕事の実態を知ることができ、より前向きに教職について考えられるようになりました。
- ・タメになった
- ・教員の働き方改革は、教員の授業や生活を豊かにするだけではなく、子どもたちに対して効果的に活動を提供できるようにするために必要なことであると感じた。
- ・働くことと、教員という職を持つことを考え、その意義を感じられた講義でした。教師に向けて、より意欲が高まりました。
- ・教員はブラックだと思い込んでいたが、様々な実態を知ることによって本当に大変すぎる職業なのか考えることができました。
- ・教師のメリットデメリットを客観的に知ることができた。
- ・給料は真剣に考えなければならない問題だと再認識した。

- ・ためになる講義だった。
- ・興味深い内容でした。
- ・教員という仕事はブラックだという話をよく聞くが、その実情について知ることができたので良かった。教員を目指す上でのモチベーションを高めることができたと思う。
- ・教員のブラックな事情について理解出来た。
- ・自己紹介のつかみの話や、サインの話が印象に残っている。
- ・非常に参考になる話でした。
- ・教職の実態について知ることができた。
- ・教職の現実を知ることができた。実習でも見てきた通り、教員は仕事が多く大変な職業だとは思っていたが、改善するための取り組みも行われていることがわかった。
- ・教員の働き方に関する実態について知ることができた。教員という仕事には良いところ(やりがいなど)もあるが、それを大きく上回るほどのブラックさがあるのだと思った。
- ・教員の現状、リアルについて知ることが出来て勉強になった。
- ・現在の教師という仕事の在り方と働き方改革についての取り組みを理解することができた。給特法の見直し、検討についてはしっかりとニュース等で追っていきたいと思う。
- ・教員の仕事はブラックと言われますが、民間も就業面が厳しい現実是不変なことが講義の中での比較でわかった。ただ、それでもブラックな面があることに変わりはないので、改善を待ちたいとも思える講義だった。
- ・教育現場の今について、ブラックとよばれる現場を多角的に知ることができた。話が重要なのは分かっていたが、聞いていることがほとんどだったので少し眠くなってしまって集中出来なかった。
- ・教師のメリットデメリットが分かりやすく知れて、今後の考えの基になった。
- ・仕事量も多く多忙な教員であるが、今後の教育現場の改善に期待していきたいと思いました。より良い環境を作ることで、より教員になりたいと感じる人も増え、教員の充実が子どもたちにとってもとても良い影響を与えると感じました。
- ・教員の仕事がブラックと言われている中で、仕事が多いことや大変さを改善しようとして、25人学級やICT機器の使用、給特法の改正などによるさまざまな制度や法律が整いつつある現状に加え、離職率の低さから、仕事が大変と言えど、子どもたちと向き合うために励む教師の姿を知ることができ、前向きにそれらを捉えることができた。
- ・実際に教員になってからのことを意識できました。
- ・教師の仕事の現状についての分析がわかりやすかった。ちゃんと残業分の手当を出して欲しいと思った。4%では少なすぎる。
- ・実習にいかしたい。
- ・教員の仕事の大変さ、その裏にある良い面について、講師である中込先生の体験をもとに考えることができました。子どもたちの自己肯定感を育てることも教員の仕事の中で必要だと考えているので、それを育てる私たち教員の自己肯定感や仕事場の十分な環境整備は、とても重要だと考えられました。
- ・教師という職業の、悪いまたは良いと言われている部分を、良いまたは悪いで判断することにとどまらずに、データなどの実際の現場の状況から情報を提供していただき、教員を目指す上で心配が大きい、教師という職業はブラックであるといわれている問題に対して根本的な部分から考える良いきっかけになったと思います。
- ・自分たちで考えるということを学ぶことができた。
- ・教員でもやりがいを感じて仕事をすれば、ブラックだとしてもやっていけると思います。
- ・教職の魅力的な点、労働環境の変化について改めて知った。
- ・教師はブラックじゃないかもしれないと分かりました。
- ・教師はブラックだと決めつけるのではなく、どうしてブラックかを考えるきっかけになりました。

- ・教育現場における課題などについて、より分かりやすい説明をされており、新たな見通しをもつことができた。
- ・教職の大変さとやりがいの両方を学べた。
- ・映像や写真を用いてわかりやすかったです
- ・教員は、ブラックな一面もあるが子供と関わる場面は絶対にブラックではないと感じた。削減できる仕事は、削減してメンタル面などのケアも必要であると感じた。
- ・教員という仕事の実習では見られない、離職率や給料などのリアルな部分を知ることができてよかった。
- ・教師という職業について改めて考えるきっかけになった
- ・いずれの職種に就いたとしても、労苦があるのは明らかなことであるが、教職の場合はもちろんのことながら大変な面を多く有し、福祉サービスや職務の性質上得られる「やりがい」がこれを上回ると説明されていた。改善が進行しているのは明らかなことであるが、「やりがい搾取」という言葉があるように、これが最後の説明に来たことは懐疑的に受け取らざるを得ないように思われる。
- ・実習で実際に仕事を体験したからこそ分かる部分が多くあって参考になった。
- ・働き方について学べた
- ・教員の仕事についてわかった。
- ・教員の働き方改革の中で、押印の廃止とあったが、前期教育実習での出勤の手続きとして押印が求められたため、まだまだ改革が進んでいないと感じた。
- ・教育現場においてよく持たれるイメージとしてブラックな職場といわれることに対して、実際の経験や教育現場からの視点からどのようなところが本当に大変なのかを学ぶことができてよかった。また実際に大変なこともあるが、その分やりがいなども感じることもできると仰っていて、いい点と改善すべき点の両方を学ぶことができてよかった。
- ・教師という職業の実態を再認識し、負担を軽減するためにも、働き方の改革が求められると学んだ。しかしその中でも、自分の意識次第で変えられる状況もあるはずだ。効率よく仕事を行うために、考えて工夫することも重要なのだと思う。
- ・学校における働き方改革の目的が教員自身が豊かになることで、子どもたちに対して効果的な教育をすることができるようにするためであることを学ぶことができた。
- ・教員の仕事はブラックなものであると思う。中込先生の話聞いて、給特法の改正が必要だと感じた。教員が質の良い仕事をするためには勤務時間や仕事を減らす必要があると感じた。
- ・教員の仕事はブラックだと言われているが最近は部活動等もゆるくなってきたり日曜日は休みになっていたりするので段々と厳しくなくなっていると思う。自分たちが働くときにはもう少し改善していれば良いなと思った。

#### <古屋先生講演の感想>

- ・実習への意欲が湧いた
- ・正解を出すことを目指すわけではなく、正解を出そうとする過程を大切にしている。ためになった。
- ・発問についてよく学ぶことができた。前期の小学校実習と合わせてよく学ぶことができた。後期の実習にも参考になったので、生かして頑張りたいと思った
- ・国語と理科を一緒に考えるということが児童生徒にとっても興味の湧くいい授業だと思った。
- ・教科横断的な学びを多少イメージできた。
- ・発問が大切だということがわかった。発問は難しいが、考えることが大切なので、これからも吟味していきたいと感じた。
- ・子供の考えたい発問と教師がしたい発問にギャップがあることがあるということがわかった

- た。子供が考えたいかつ学習につながる問いを設定することはとても難しいと感じた。
- ・知識の定着についての話をしっかりと考えることができた。
  - ・発問の仕方など色々学べた。
  - ・講義→答えのある問題を解く→最適解のある問題を解く授業の流れのおもしろさを実際に体験してみてわかった。
  - ・教科ごとの組み合わせ方について考え直すことが出来た。教科横断型学習の方法についてなぜその方法が子どもにとってよいのか考えることが出来た。
  - ・問の重要さが分かった。
  - ・各教科の知識を組み合わせ物事を考えることのおもしろさを感じる事ができた。ひとつの教科で学んだ知識をその場で終わらせるのではなく、日常生活に落とし込んで考えることができる子どもたちも学ぶ意欲が湧いてくるのかなと感じた。
  - ・発問の仕方を工夫することが重要だと気づいた。
  - ・対話をする事の重要性について、グループワークをすることによって実感することができた。
  - ・アドジャンは自然と話すことができるし、お互いのことを知ることでもできとてもいいなと思った。知識・技能を身につけるだけではないなというのを問題などを通して実感することができた。また、質問の仕方や発問の仕方の大切さを実習でも感じていて今回もそのようなお話が出てきて、後期でこの発問の部分を工夫できるようにしていきたいと思った。
  - ・グループワークを通じて、関連した内容を発問を変えることによって学習側の捉え方が異なることを実感した。
  - ・知識、技能だけでなく、それらを応用できる力を児童生徒が身につけることができるように発問の仕方や授業構成などを考えることが大切だと言うことがわかりました。
  - ・楽しかったです
  - ・答えがハッキリとしていない問は子どもたちにとっても楽しいし、GWで解を想像していく活動は新鮮で楽しいものであるなと思った。
  - ・発問によって子どもの意欲が大きく変化することを実感しました。
  - ・学校教育をクリティカルに見る力が大切だと学べた。
  - ・授業の発問は慎重に行なって、子どもからの発問をつくる機会も必要なことを感じた。"
  - ・今後につながる講義でした。ありがとうございました。
  - ・ただの暗記だとすぐに忘れてしまうことを実感しました。グループでのワークが多くて楽しかったです。
  - ・普段着目しない観点から問題を考えることができ、面白かった。
  - ・思考の運び方がわかって指導イメージができた。
  - ・後期の実習が憂鬱ではあるが頑張ろうと思えた。
  - ・興味深い内容でした。
  - ・「月」の形について班の人と話すことで、色々な意見を知ることができ、主体的に学ぶことができるようになると思った。
  - ・発問について考えることが出来た。
  - ・様々な視点から授業を捉えることが大切だと感じた。
  - ・非常に参考になる話でした。
  - ・教科横断的に学習ができるよう工夫することが大切だと感じた。
  - ・深い学びを実現するための具体的な方法を知ることができた。教科横断的に学習することが、深い学びを実現するためのひとつの手段だということが、実際に活動をやってみてわかった。
  - ・とても面白い内容だった
  - ・実際の授業で、今回と同じくらい生徒に考えさせる内容に出来たらいいなと思った
  - ・「発問」には様々な種類があると知ったので、これからの実習ではそれに沿って発問を考えら

れるようにしたい。

- ・教科横断的な学び方について考えが深まりました。
- ・国語科と理科を結び付けた演習を行って、児童が様々な考えをめぐらし、主体的で対話的な深い学びができるような発問を頑張って作っていきたいと思った。
- ・教科の知識を組み合わせた授業についての案を得ることができ、後期実習の参考にすることができました。
- ・テンポ感がよく取り組みやすかった
- ・教師の発問は生徒の新たな考えや視点を増やせるきっかけなんだと改めて感じた。
- ・子どもたちに自分の意見を考えさせたり、思いを持たせたりする主体的な活動が今後の教育に必要だと思った。
- ・アドジャンのようなアイスブレイクを行うことで短期間で相手の情報を沢山知ることができ、話を広げるきっかけに繋がると感じました。
- ・また授業を作る際には、知識を習得し、活用、探求というプロセスで行い、子どもの様々な角度から物事を考える力を養っていきたいと感じました。
- ・教科を横断させることの良さ、学びの深まり方を、実感を持って知ることができたことや、知識・技能の定着を図るために、児童生徒同士が自身の意見を交わし合うことで、問いを追求していくことの重要性を、身をもって分かった。また、発問とは、答えを合わせるのではなく、教師の発問が刺激となって子どもの探究がはじまる発問が真のものであるというお話から、発問を設定する重要性や難しさを感じ、教育実習の際に意識していきたいと思った。
- ・惹きつける話し方や話の内容を知れたり、実際に教師をしていた人から学べるがあったりしたと思います。
- ・知識の使い方や教え方についてイメージが付きやすくなった。
- ・授業作りに活かしたい。
- ・教科を横断して考えることができる問題を通して、子どもたちが体験する考えの通り道を大学生である私たちが体験することで、実習に向けて発問の大切さについて考えることができました。また、班のメンバーとの意見を多く話合うことで楽しく、活発な体験をすることが出来ました。
- ・発問の重要性について改めて認識することができました。教師がどんな発問をするのかによって、子どもたちの問題の捉え方や学び方も変化することを確認することができました。また、知識・技能を持っているだけではなく、それを使えるような学びをしていくことができるような授業づくりについて学ぶことができ、ぜひ、実習でいかせるところは存分にいかしていきたいと思いました。
- ・興味深い話が多く、今まで話したことのない人とのワークなどを行う中で楽しく聞くことができた。
- ・いろいろな教科を組み合わせる授業をすることは楽しいことであるということが分かりました。
- ・グループで協力して、頑張って考えることが出来た。
- ・月の勉強になりました。
- ・教科横断した問題がとても面白かったです
- ・今後の教育実習や教員になったときに役立つことを多く学ぶことができ、非常に為になった。
- ・グループワークで進んでいて、楽しく講義を受けることができました。
- ・見やすいスライドで要点が整理されていてよかったです
- ・知識をどう活用するのか、ただ知っているだけでは深い学びにはならないのかなと感じた。理解してもらうことが大切であるがどうしたら活用してくれるのかまで考えなくてはいけないと思う。
- ・発問の仕方では子どもの思考があちこちに変わるということがわかった。より効果的な発問を考えら

れるように後期教育実習を頑張りたいと思った。

- ・実際の活動を通してクリティカルシンキングなどについて学ぶことができた
- ・前期実習において「学びあい」の場面をとる学習の時間はあまりとれなかったので、ここで得られた知見を活かそうと思う。他方、あまり強調されていなかったがグループワークは、先だって各生徒の意見が存在してはじめて成立する、意味を成すものと思われ、実際にグループワークには入る前に個人の意見を確認するような動きがあったので、この点も意識したいと思う。
- ・後期の実習の際には、古屋先生のお話を参考にして取り組んでいきたいと思った。
- ・次の実習のモチベーションになった
- ・様々な考え方を学べた。
- ・知識理解の定着として、外化・対話の機会を作ることが有効とあり、間違っても理解が進むため、私も後期の教育実習の授業内で積極的に取り入れたいと思った。
- ・この講義の内容では実際に得た知識や情報を活用するための手段として、問の部分から知識を活用して解くことができるかもしれないという意識を児童や生徒に持たせることが重要になってくると感じた。このような考え方は私の中にはあまりなかったので後期の実習を行う際にはこのような問を作れるようにしていきたいと感じた。
- ・授業で、どのような発問を投げかけるべきか、学ぶことができた。重要なことは、答えを言わせるような問いを投げかけるのではなく、子どもの思考をうながすような問いを投げかけることであると学んだ。
- ・子どもが主体的に考えることのできる発問を教師は考えることが必要だと感じた。
- ・自分が教師として生徒に問題を提示する時には今回行った問題のように、知識を直接使えるようなものにすると効果的だと感じた。
- ・みんなで話し合っただけで納得する答えを出すところがとても良いと思いました。

#### <本講座について>

- ・教員への意欲が高まった
- ・教師力以外にも色々学べた。
- ・貴重なお話を聴くことができ勉強になった。後期の実習に活かせるように頑張りたいとおもった。
- ・貴重な講座をありがとうございました。
- ・「教師力」と言う漠然とした印象があるが、より実践的な力を身に付けるためにも、グループワークなどを通して、学生同士で交流することも大切だと思った。
- ・非常に参考になりました。次回も参加したいです。
- ・教師という職業について、身に付けるべき力や知っておかなければならない知識、素質を享受することができた。しっかりとこれを受け止めて自分の力の糧にしていきたいと思う。
- ・ありがとうございました。
- ・ただ講義を聞くだけでなく、活動する時間もあったので、没入感がとてもありました。
- ・今後の教育実習に活かせるような内容ばかりで、とても有意義な時間を過ごせたと思います。ありがとうございました。
- ・自分では考えが浮かばない授業方法や内容についての見方、考えさせ方を学ぶことができ、有意義な時間になったと考える。
- ・教師という職業について改めて深く知ることができた。
- ・後期実習に向けて新たな視点やアイデアを得ることができ、良い機会となる講座であったと感じています。
- ・とても良い学習の機会をありがとうございました。

# 教科書の使い方講座

～算数・数学授業における教科書活用法、決定版！～

2023年11月14日(火) 18:00～20:00

対面・Zoom  
同時開催

対面会場：山梨大学甲府キャンパス J号館5階 A会議室

「教科書を教える」のではなく、「教科書で教える」ことが大切！

教育現場は多忙を極めています。子どもたちが主体的に考える授業をしたいけれど、教材研究する時間がじゅうぶん確保できず、悩みながら実践している先生方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

今回は、こうした課題に真っ向から立ち向かう、若き現場の実践者をお迎えし、「私の教科書の使い方」をご提案いただきます。また、山梨全県で使用されている教科書の特徴なども、執筆者である大学教員より紹介いたします。みなさんで意見を出し合い、子どもたちが主体的に考え理解を深めることができる効果的な教科書の活用法について、議論していきましょう。

## 提案者

青柳 瑞希（中央市立田富中学校教諭）  
鷹野 公俊（甲斐市立竜王中学校教諭）  
鶴田 翔平（笛吹市立石和南小学校教諭）  
小野田 瑞紀（山梨大学教育学部附属小学校教諭）



## コメンテーター

早川 健（山梨大学大学院教育実践創成講座 教授）  
清水 宏幸（山梨大学教育学部科学教育講座 教授）

## コーディネーター

角田 大輔（山梨大学教育学部附属教育実践総合センター）

【入場料】 無料

【対象者】 教員、学部学生、大学院生、大学等の研究者、  
県内外の教育関係者、一般の皆さま

【主催】 山梨大学教育学部

【共催】 山梨県教育委員会

【後援】 甲府市教育委員会

【お問い合わせ】

山梨大学教育学部附属教育実践総合センター（事務室）

TEL:055-220-8325 FAX:055-220-8790

E-mail: jissen@ml.yamanashi.ac.jp

## お申込み 方法



参加をご希望の方は、  
11月6日(月)までにお  
申し込みください。

Zoomミーティング参加  
のためのURL等は、開  
催前日までにお送りい  
たします。

## ■ 10・11月の主な行事予定

# 10～11月の 行事予定

山梨大学教育学部の  
関係行事を含みます

### 研 修

○第42回教育フォーラム「教科書の使い方講座 ～算数・数学

授業における教科書活用法、決定版！～」

11月14日（火）18時～20時

※対面・オンラインによるハイフレックス方式で開催します。

対面会場は山梨大学甲府西キャンパスJ号館 5階 A会議室です。

山梨県教育委員会との共催事業です。詳細は本資料15Pのチラシを御覧ください。

### 教員採用試験対策講座

○時事通信出版局による基礎ガイダンス～教員採用試験の最新動向と学習対策～

10月6日（金）…M1、3年、2年（次年度教採受験者）

○学内模試1

10月12日（木）…M1、3年、2年（次年度教採受験者）

○学内模試2

11月29日（水）…M1、3年、2年（次年度教採受験者）

○フォローアップ相談会2

10月19日（木）…M2、S1、4年

○論作文作成演習

10月24日（火）10月26日（木）…M1、3年（次年度教採受験者）

○教員採用試験に向けての相談期間（教採合格者によるアドバイス）

11月13日（月）～17日（金）…3年

### 進路支援

○進路支援ガイダンス

10月4日（火）…1年全員

10月11日（水）…3年全員（ウォーミングアップ講座1含む）

10月11日（水）…2年全員

○就活スタート説明会

10月11日（水）…3年全員、2年、1年

○3年生学生面接

10月18日（水）10月25日（水）11月1日（水）…3年全員

### 教育ボランティア

○後期教育ボランティアガイダンス

10月4日（火）…全学年